

第64回 東京都会計基準委員会 議事要旨

【開催日時等】

- 日 時 令和7年8月19日（火） 14時～16時
- 場 所 東京都庁第一本庁舎 南塔36階 会議室B
- 出席委員 公認会計士 薄井 誠
公認会計士 中川美雪
公認会計士 蒔谷竹生

【議題】

- ・ 開 会
- (1) 令和6年度財務諸表（案）について
- (2) 令和6年度財務諸表の点検について
- (3) 東京都の財務諸表（概要版）について

【配付資料】

- 資料1 令和6年度財務諸表（案）について
- 資料2 令和6年度財務諸表の点検について
- 資料3 東京都の財務諸表（概要版）

【議事内容】

委員会では、議題に沿って以下のような内容の協議や意見交換が行われた。

(1) 令和6年度財務諸表（案）について

事務局より、資料1を用いて、令和6年度財務諸表の概要と令和5年度からの増減要因分析を報告した。

(増減要因の分析)

- ・貸借対照表について、道路橋梁関連資産に係る建設仮勘定の増加や政策連携団体への出捐金の増加等により、資産総額が増加した一方、都債の減少等により、負債総額が減少し、正味財産は増加したことを説明した。
- ・行政コスト計算書について、収入面では、都税収入の増加や事業協力団体の株式売却による特別収入の増加があった一方、費用面では、税連動経費や物価高騰対策に係る物件費が増加したことなどから、当期収支差額は前年度より増加したことを説明した。

◎税収が増加した主な要因について教えて欲しい。

→要因として、企業収益が堅調に推移により法人二税が増加したことや雇用・所得環境の改善により個人都民税が増加したことなどが挙げられる。（事務局）

◎基金の用途はどのように決まっているのか。

→基金については、条例に基づき設置しており、その設置目的の範囲内で利用されている。（事務局）

◎前回の会計基準委員会で議題となっていたカーボンクレジット取引の決算への影響はどのようなものになるのか。

→当該取引については、委託での実施であるため、委託料として計上されるものと考えている。(事務局)

(2) 令和6年度財務諸表の点検について

事務局より、資料2を用いて、官庁会計と財務諸表の決算値の正確性を照合等により検証した結果を報告した。

(官庁会計の決算値との差異把握)

- ・行政財産や普通財産、債権等について、官庁会計との制度の違いにより発生する差異等を説明した。

◎差異についてはどの時点で修正をしているか。

→差異があった場合には、次年度に早期に解消するように所管局に指導を行っている。(事務局)

(3) 東京都の財務諸表(概要版)について

事務局より、資料3を用いて、財務諸表から分かる指標や今年度より新たにデジタルブック形式での公表を実施予定であること等を説明した。

(財務諸表から分かる指標等)

- ・財務活動を除くキャッシュの安定性を示す「行政活動キャッシュ・フロー収支差額」について、令和6年度は、行政支出の増加があった一方で、税収等の収入や財産収入が増加したことから、四期連続でプラスの値を維持していることを説明した。
- ・耐用年数に対して、資産の取得からどの程度経過しているかを示す「有形固定資産減価償却率」について、残価率に係る会計方針を変更した平成30年度を除き、過去10年間を通じて、緩やかな上昇傾向が続いていることを説明した。

◎音声コードについて非常に良い取り組みと思うが、コードを読み取るとどのような情報が読み上げられるのか。

→視覚の不自由な方でも内容を理解しやすいように、ページ毎に構成や要点を読み上げている。(事務局)

◎概要版に掲載している指標について、これまでは経年で比較しやすい指標を載せているが、他にどのような観点で見えていくことが有用か。(事務局)

→経年で推移を見ることができ、適切でわかりやすいものとなっているが、投資規模の適正性の判断する指標として、減価償却費に対する社会資本整備等投資活動の割合なども有用かと思う。また、財政の硬直化を見る指標として、行政コスト計算書の収入に対する義務的経費の割合なども考えられる。

→掲載する指標等わかりやすい決算の見せ方について今後も検討を進めていく。(事務局)

◎確認だが、今回の決算で特徴的な事項としては、「令和6年度決算のポイント」に記載されている事業や取組になるのか。

→そのとおり、都では様々な事業を実施しているが、主要なものとしては、長期化している物価高騰への対策や将来の利払い費の縮減のための都債の繰上償還などが挙げられる。(事務局)

○ 今後の予定

次回は、令和8年3月に以下の議題での開催を予定している。

- ・令和6年度財務諸表監査の報告について
- ・その他

以 上